



日本語学校を47人が卒業

3月13日(木)、築館地区にあるN・S日本語学校の卒業証書授与式が築館農村環境改善センターを会場に行われました。

今年で2回目となった同校の授与式では、齋藤輔左夫学校長から卒業生47人にそれぞれ卒業証書が手渡され、関係者や在校生が見守りました。

また、齋藤学校長は、卒業生が入学した約2年前を振り返り、慣れない日本での生活や日本語を習得したこれまでの努力をたたえ、それぞれが歩む道にエールを贈りました。



風船に希望を乗せて

3月23日(日)、栗駒地区の旧文字小学校跡地を会場に「バルーンリリース2025 in 文字」が開催されました。この催しは、入学や卒業など人生の大切な節目を迎えた市内在住の児童や生徒を祝うため、文字地区コミュニティ推進協議会が主催したもので、約200人が来場しました。

当日は、夢や希望を書いたカードを付けた色鮮やかな風船が一斉に青空に放たれた他、市内ダンススクールのリバイバルによるダンスも披露され、イベントを盛り上げました。



健やかな成長と無病息災願う

4月6日(日)、瀬峰泉谷地区で「第44回泉谷お屋敷祭り」が開催されました。

この祭りは、伊達家から泉谷を拝領した橋本宗圓をしのぶものとして藩政時代から伝わり、災厄を象徴するわら人形を焼いて無病息災を願うものです。

当日は、同地区の金澤寺で祈祷後、家紋入りの旗や太鼓、わら人形を伴った袴姿の大人たちと、華やかな装束をまとった稚児行列が地区内を練り歩きました。また、その後、わら人形を焼いて無病息災を祈願しました。



ZOOM UP!

まちの話題
ズームアップ!

各地区の催しを、毎月5地区ずつ紹介します。
取材を希望する場合は、催しを開催する2カ月前までに、市政情報課(☎22-1126)へ連絡してください。

伊豆沼・内沼の環境を保つ

3月20日(木)、伊豆沼・内沼周辺を会場に「第63回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン」が開催されました。

この活動は、マガンやハクチョウなどの渡り鳥がシベリアなどに帰った後のこの時期に開催されているもので、今年で43年目を迎えます。

当日は、近隣の住民や小・中学生、企業・団体などから約600人が参加し、空き缶やタバコの吸い殻、廃タイヤなど780キロプログラムのごみを回収し、汗を流しました。



県内最古の清水互市

3月29日(土)と30日(日)、旧清水中学校前通りを会場に「清水互市」が開催されました。

この互市は、仙北街商協同組合が牟良左喜神社の祭礼時期に合わせて開催したもので、県内で最も古い互市とされています。

当日は、時々強い風が吹く気候でしたが、野菜の苗や沼エビ、大判焼きなどを販売する7つの露店が並び、通りには、春休み中の子どもたちや家族連れなどが、栽培や調理の方法を聞きながら、買い物を楽しんでいました。



春色に染まる桜まつり

4月12日(土)から13日(日)にかけ、市内各地で桜まつりが開催されました。

このうち、12日に瀬峰五輪堂山公園で開催された「第39回栗原市せみね桜まつり」では、市内で活動する空手競技団体による演武や、ロックバンドによる演奏、歌謡ショーなども行われ、観客からたくさんの拍手が送られました。

また、13日に開催された「2025つきだて桜まつり」では、会場の薬師山児童公園に屋台や縁日コーナーが出店した他、講談師による講談などが行われ、来場者を楽しませていました。その他「第6回全日本伊達なつき男・つき女決定戦」も開催され、小学生から大人までの男女28人が、薬師山の急な上り坂を一気に駆け上がり、迫力のレースを繰り広げました。

この他、同日に開催された「若柳桜まつり」では、見頃を迎えた桜並木の脇を懐かしいボンネットバスが走り、乗車した家族連れなどが、車窓から満開の桜を楽しみました。また、祭り期間中、夜桜のライトアップも行われ、幻想的な光景が川面に浮かび上がりました。

- 1 栗原市せみね桜まつりで演武を披露する宮城空手道北峰会
- 2 つきだて桜まつりで子どもたちに人気の縁日コーナー
- 3 若柳桜まつりで運行された桜並木を行くボンネットバス



長寿100歳 おめでとう ございます

大正、昭和、平成、令和。激動の4つの時代を駆け抜け、思いを紡いで1世紀。

100歳の誕生日を迎えた6人を紹介します。



なんじょう りょうこ
南條 良子 さん(築館太田)

家業の農業を手伝い、5人の子どもを育てました。民謡が得意で、数々の大会に出場し、テレビにも出演しました。



すぎ たみ
炭屋 蓉子 さん(若柳上在)

炭作りをなりわいに3人の子どもを育てました。好き嫌いをせず何でも食べることが長寿の秘訣と語られました。



ささき あいこ
佐々木 あゑ子 さん(若柳内谷川)

農業を手伝い、裁縫や編み物など、手仕事で得意で、家族がかぶる帽子も自ら作るほどの腕前の持ち主です。



むらかみ あいこ
村上 愛子 さん(瀬峰泉谷)

家業の農業を手伝い、5人の子どもを育て上げました。手芸が趣味で、ひ孫が来るのを楽しみにしています。



むらた ふみこ
村田 二三子 さん(金成東)

農業と山仕事を手伝い、家族を支えました。裁縫が得意で、若柳や金成地区で指導するほどの腕前です。



かんの しずお
菅野 幸治 さん(金成南2)

腕利きの大工として工務店を切り盛りし、店を次男に譲った後も大工を続けました。現在は、畑仕事をしています。